

単 位 数	教 科 担 当 者	使用教科書・補助教材・その他
4	小川 真一 馬場 崇 谷口 望	教科書 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B（数研出版）
必 履 修 学校必履修 ○必修選択 ○自由選択		補助教材 クリアー数学演習ⅠⅡABC（数研出版） サクシード数学Ⅰ+A（数研出版） サクシード数学Ⅱ+B+ベクトル（数研出版） Focus Gold 数学Ⅰ+A 数学Ⅱ+B+ベクトル（啓林館） 2027共通テスト対策「実力完成」直前演習数学Ⅰ+A 35分×14（ベネッセ） 2027共通テスト対策「実力完成」直前演習数学Ⅱ・B・C35分×14（ベネッセ）

◆学習の目標

数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの内容を深く理解し、問題演習をすることにより、国公立大の2次試験及び私立大の記述試験に対応できる能力を養う。

◆主な学習内容・方法

- (1) クリアー数学演習を使用した入試問題演習を学習の中心とする。
- (2) 必要に応じて、Focus Gold(参考書)やオリジナル教材を使用して、難関校の問題に対応したレベルの演習を行う。
- (3) 2学期後半は、共通テスト対策演習と入試問題発展演習を行い、難関国公立入試対策演習を総合的に行う。
- (4) 3学期は、大学別の国立2次試験対策の問題を用意して解説及び添削指導を行う。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

数学的な見方や考え方、論理的な思考力・判断力が身に付いているかを、次の観点で見ることで評価する。

〔観点別評価の評価規準〕

○知識・技能

基本的な概念や原理を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理する技能を身に付けることができる。

○思考・判断・表現

問題を数学的に考察して解決に至ったり、解法の過程や結果を多角的に考察する力を養い、思考の過程を振り返りながら発展的に考え、解法を見つけていくことができる。

○主体的に学習に取り組む態度

数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり改善しようとする態度や積極的に数学を利用しようとする姿勢を見ることができる。

◆年間予定授業時間

予定時数	140時間	1学期（52時間）	2学期（56時間）	3学期（32時間）
------	-------	-----------	-----------	-----------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- (1) 予習・復習・課題理解の習慣を身に付ける。前もって課題の問題を解き、予習する。授業で解法を理解し、別解や解法のポイントを理解する。
- (2) 問題を解くポイントを習得し、細かい点も含めて、記述解答を丁寧に作るよう心がける。
- (3) 解けなかった問題は解答解説等で理解した後に再度自分の力で解き、実力の定着を目指す。
- (4) なぜその解法を用いるのか、なぜそのような考え方をするのか等、常に「なぜ」を追求する。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元 ごとの 時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	ク リ アー 数 学 演 習 を用いた 単元別演習	5 2	標準的な入試問題を中心に記述形式 の解答作成の演習を行う。 数と式 2 次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 数学と人間の活動 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数 対数関数 微分法 積分法 数列 確率分布と統計的な推測 ベクトル	たとえ苦手な単 元であっても、 標準的な問題、 典型的な問題は 確実に解けるよ うにする。 問題文から条件 等の問題解決に 必要な公式や定 定を見極めるこ とができる。 限られた時間の 中で効率よく計 算するために、 式の特徴を活か かして変形する などの定石の の計算手法を使 えるようにする。
	5				
	6				
	7				
2 学期	8	ク リ アー 数 学 演 習を用いた 総合演習	5 6	それぞれの単元の復習を行いながら 発展的な融合問題を扱う。 共通テスト対策演習	これまでの知識 を生かし複数の 分野が融合され た問題にも対応 活用できるよう にする。 答案も論理的 で丁寧な解答を を書くことが できる。
	9				
	10	共通テスト 予想問題集を 用いた演習			
	11				
	12				
3 学期	1	国公立大学 受験対策 問題演習	3 2	難関国立大学の入試演習	志望する国立大学 の合格目標点に到 達できるための解 答と戦略を立てる ことができる。
	2				
	3				